1.麻疹

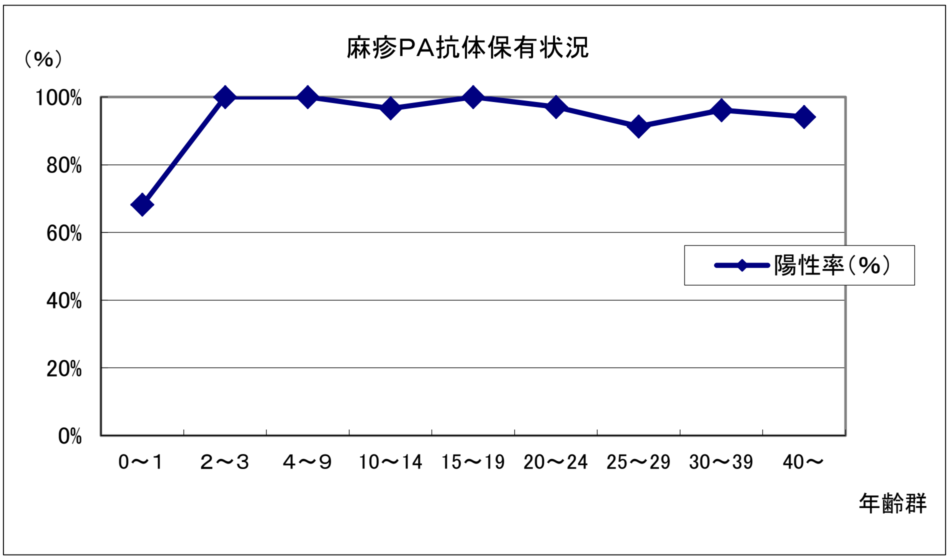
1)検体数

年齢群	0～1	2～3	4～9	10～14	15～19	20～24	25～29	30～39	40～	合計
検体数	22	20	34	30	31	34	46	77	68	362

麻疹は合計362検体についてゼラチン粒子凝集(particle agglutination:PA)にて麻疹PA抗体価を測定した。

2)麻疹PA抗体保有状況(%:PA価16倍以上陽性)

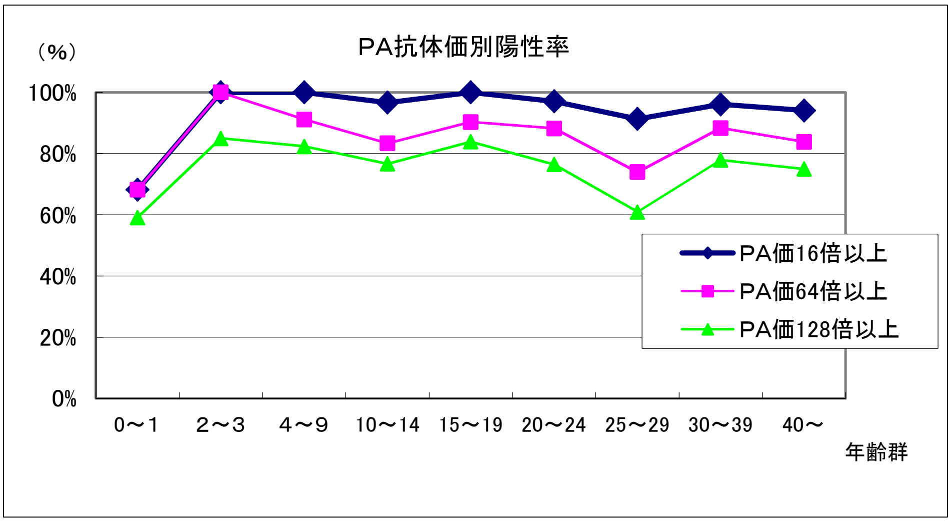
年齢群	0～1	2～3	4～9	10～14	15～19	20～24	25～29	30～39	40～
陽性率(%)	68.2%	100.0%	100.0%	96.7%	100.0%	97.1%	91.3%	96.1%	94.1%



麻疹抗体保有状況は、2～9歳、15～19歳の年齢群で100%であった。25～29歳、40歳以上の年齢群で陽性率が95%を下回ったが、0～1歳の年齢群以外では高い保有率を維持していた。2～3歳の年齢群では昨年度より上昇した(昨年度は91.7%)。

3）麻疹PA抗体価別陽性率（%）

年齢群	0～1	2～3	4～9	10～14	15～19	20～24	25～29	30～39	40～
PA価16倍以上	68.2%	100.0%	100.0%	96.7%	100.0%	97.1%	91.3%	96.1%	94.1%
PA価64倍以上	68.2%	100.0%	91.2%	83.3%	90.3%	88.2%	73.9%	88.3%	83.8%
PA価128倍以上	59.1%	85.0%	82.4%	76.7%	83.9%	76.5%	60.9%	77.9%	75.0%



抗体価は修飾麻疹を含めた発症予防可能レベルを考えるとPA価128倍以上が望まれる。平成26年度は2～19歳までの年齢群で他の年齢群より抗体価が高い傾向があり、特に2～3歳、4～9歳および15～19歳の年齢群ではPA価128倍以上が80%を超えていた。25～29歳の年齢群ではPA価128倍以上の割合が0～1歳の年齢群を除く全ての年齢群より低く、昨年度と比べ低下していた（昨年度は71.3%）。

2.風疹

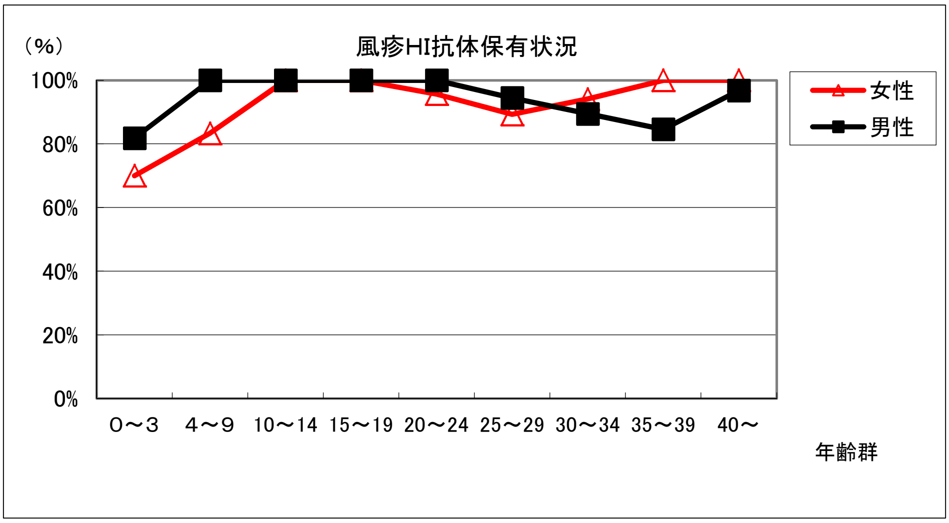
1）検体数

年齢群	0～3	4～9	10～14	15～19	20～24	25～29	30～34	35～39	40～	合計
女性	20	18	15	17	23	28	17	28	37	203
男性	22	16	15	14	11	18	19	13	31	159
合計	42	34	30	31	34	46	36	41	68	362

風疹は合計362検体について風疹HI抗体価を測定した。

2）風疹HI抗体保有状況（%：HI価８倍以上陽性）

年齢群	0～3	4～9	10～14	15～19	20～24	25～29	30～34	35～39	40～
女性	70.0%	83.3%	100.0%	100.0%	95.7%	89.3%	94.1%	100.0%	100.0%
男性	81.8%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	94.4%	89.5%	84.6%	96.8%



風疹抗体保有率は、男女ともに10～24歳の年齢群で95%以上を示した。女性は25～29歳の年齢群で0～９歳の年齢群を除く全ての年齢群に比べ低く90%を下回った。平成25年度の結果では、女性は20～24歳の年齢群で87.5%、25～29歳の年齢群で89.7%であり90%を下回っていた。今年度においても25～29歳の年齢群で低い傾向がみられた。男性は30～39歳の年齢群で0～３歳の年齢群を除く全ての年齢群に比べ低く90%を下回った。男性は前回、35～39歳の年齢群で68.2%であり今年度も35～39歳の年齢群で低い傾向がみられた。

3.日本脳炎

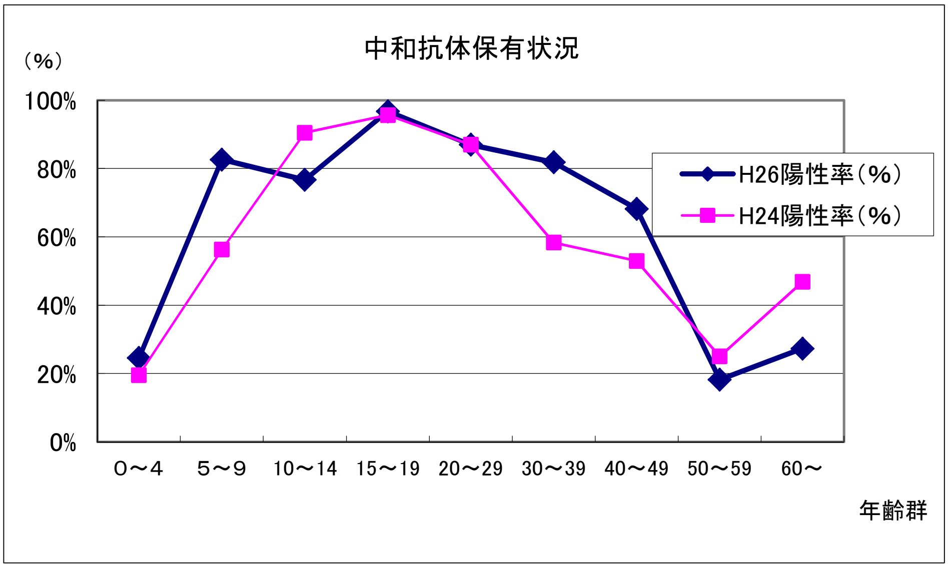
1)検体数

年齢群	0～4	5～9	10～14	15～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～	合計
検体数	53	23	30	31	23	33	22	22	22	259

日本脳炎抗体は合計259検体について中和抗体価を測定した。

2)日本脳炎中和抗体保有状況(%:中和抗体価10倍以上陽性)

年齢群	0～4	5～9	10～14	15～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～
H26陽性率(%)	24.5%	82.6%	76.7%	96.8%	87.0%	81.8%	68.2%	18.2%	27.3%



日本脳炎抗体保有状況は、15～19歳の年齢群で最も陽性率が高く96.8%であった。その後なだらかに減少し、60歳以上の年齢群で上昇に転じている。今年度、5～9歳の年齢群の陽性率は82.6%で前回(平成24年度:56.3%)より26ポイント程度上昇したが、10～14歳の年齢群は76.7%で前回(90.5%)より14ポイント程度低下した。